

全知全能、オ - ルマイティ、久々に聞く言葉でした。好きな言葉でした。私が T 氏に抱いているイメージがそれでした。超能力者として崇拜してきました。肉を比べていました。みんなの前に立つ者は、ベ - ルに包まれていなければならない。みんなとお風呂に入って、みんなと同じ部屋で食事している田池留吉にそんなことしてほしくないと思ってきたのかもしれませんが。知らず知らずのうちにそう思ってきたのかもしれませんが。肉的に嫌いなところがあるかと聞かれて、普通の人であることがだめで、もっと秘密めいたところがある人であつたらいいと思ってきたのかもしれませんが。

T 氏に向けなさいと言われて、心で感じるものは苦しい思いだけです。そしてここでは自分の力が充分に出せないから悔しい、田池留吉消えうせる、という思いが出てきます。しかしなお田池留吉の波動はその思いさえも包み込むやさしさです。心が変わっていくのが分かります。お母さん、お母さん、お母さんはこんな私を受け入れてくれた、こんなすごいエネルギー - を出している私を受け入れてくれたと私の心は変わっていくのでした。先生はただその波動の違いを教えてくれているのです。言葉はいりませんでした。姿形はいりませんでした。力説しなくても感じられるやさしさがありました。形で示してくれない先生に苛立っていました。T 氏をはるか上に置き、田池留吉、本当の自分を見下げ続けてきました。私は田池留吉の肉にとらわれていました。田池留吉を肉としてしか見ていませんでした。田池留吉の方に何回も向けさせてもらいました。田池留吉の波動はお母さんの温もりでした。お母さんでした。田池留吉に心に向けて、T 氏を崇拜している私の思いを緩めていきます。